

インタビューテーマ

2 まちをよくするために自らがこれから取り組んでいきたいことについて

①若手経済団体及び若手経営者

- ・県会議所では、若年層の政治参画意識の向上をテーマにしている。社会問題、地域課題に対し、若年層で取り組んでいきたい。
- ・大船渡のお酒のラッピングを大漁旗古風に取り組み始めている。大船渡で使われている何かを、小売店の商品の付加価値にしていきたい。大漁旗のリサイクル使用を試みているが、大漁旗は他人からの贈答品であることから、そもそも廃棄するものではないことが分かった。
- ・地域でなじみのあるイベントの開催に取り組みたい。
- ・自分を磨いて、会社がよくなれば、社会、地域もよくなる。
- ・「山は海の恋人」、山を整備することに注力したい。
- ・気仙3地域観光交流の促進、魚市場で朝市を開催したい。漁業に特化したスポーツの提案、ダイエットルートの提案など。
- ・大漁旗をプリント利用してはどうか。点で散らばっているものをつなげて情報発信していく。
- ・紙面を通じて、大船渡市の情報提供を続けていきたい。
- ・廃校の利用など、若者に読んでもらえる新聞になるよう心がけたい。
- ・大船渡の魅力を勉強して、自社の店舗でも発信していきたい。
- ・農家や漁師宅への民泊に取り組んでいきたい。日帰りだとしても漁師体験を通じて、大船渡市が第2のふるさとになるような企画を考えている。関係人口の増加の推進に取り組みたい。

②農林水産業者

- ・地域住民とのコミュニケーションを積極的にとっていきたい。地域で役職を担っているものもあるが、地域のスポーツ大会などで高齢者とのコミュニケーションができていれば、災害時などにも活かせる。
- ・個人的には、インスタなどSNSでの発信。
- ・夢海公園で犬の散歩をしている写真などを通じても大船渡の風景の良さなどをPRできる。
- ・市全体で水揚げが減っている状況で、若手として企業同士の連携をできればいいと思う。事業者はそれぞれライバルであるが、困難に直面した際に、各社一丸となって水産業をよりよくしていくのでは。それによって若い人が入りやすい雰囲気につながるかもしれない。
- ・県内で漁業を営んでいる人たちは「皆で稼げるようにならなければ」と考えている。それを進めるためにも収入の安定を目指すところから始めなければならない。越喜来、吉浜ではサーモン養殖の試験が始まるが、これができたら利用が広がると思う。
- ・地産地消を強化していきたい。大船渡の野菜は品質がよく、出荷している関東等での評価は高い。需要はあるが生産が追いついていない。輸送面でコストが高くなっているところがあり、その解消にも地元で消費を伸ばしていきたい。5年ほど地産地消フェアはやっており、PRしていきたい。一次産業同士、企業間の連携も模索していきたい。
- ・農業への興味を持ってもらい、さらに後継者を育成するため、農業に触れてもらう見学ツアーや、こどもに農業を体験してもらうイベントを実施している。新規の方への指導なども継続していきたい。
- ・林野火災を経て、防災の重要性を感じた。組合では被災地復旧に努めているが、木材の利用促進も進めたい。また、東高校での林業体験の実施やドローン測量、林業機械の体験など、若い人たちに森林の大切さを引き続き伝えていきたい。
- ・地域住民が健康でいられる地域づくりに取り組んでいきたい。